

2006年9,10,11月の海面水温偏差(°C)

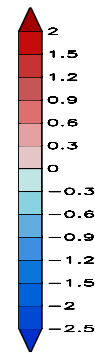
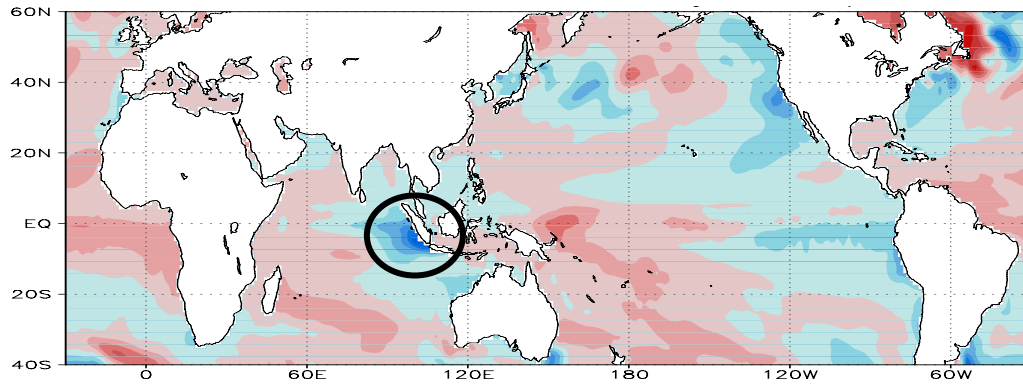
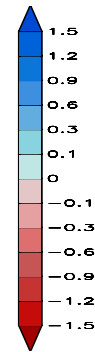
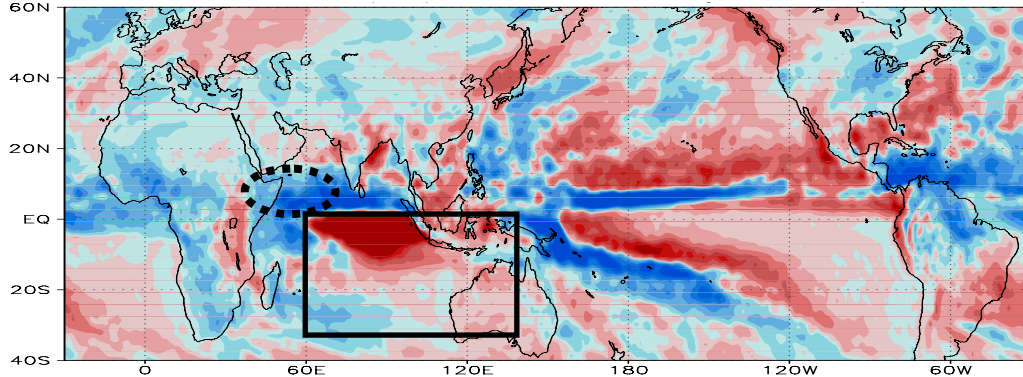


図2: 2006年7月にSINTEX-F1モデルで行った2006年9~11月の状況の予測

上図: 海面水温の平均値からの差の分布。黒線円内は、海面水温が低いことを予測しており、観測された海面水温(図3)に示されるように、この秋の正のIOD現象の発生を予測していたことが分かります。

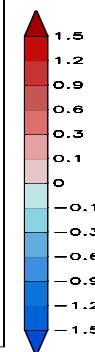
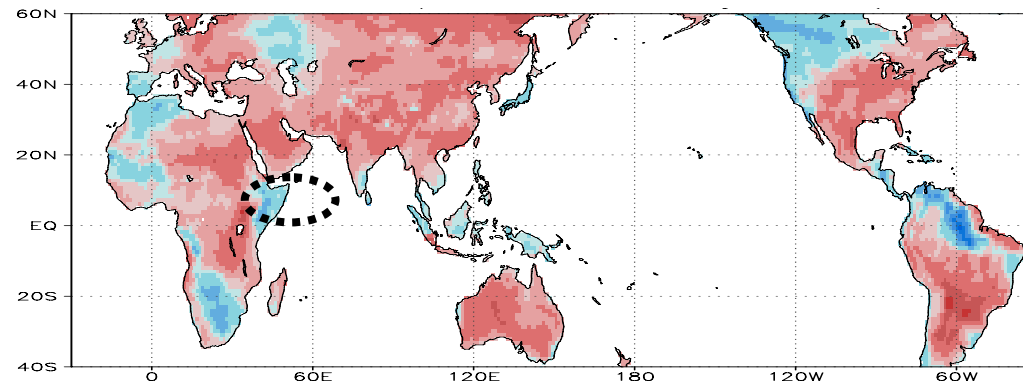
2006年9,10,11月の降雨量偏差(mm/日)



中図: 降水量の平均値からの差の分布。
下図: 地上2mの気温の平均値からの差の分布。

これら中・下図では、熱帯インド洋東部からオーストラリア西部に至る地域(四角線内)が下降気流により乾燥し、熱帯インド洋中央部から西部(楕円破線内)は上昇気流が強化されて高温湿潤傾向になることを予測しました。

2006年9,10,11月の地上2m付近の気温偏差(°C)



(いずれも、僅かな差異を与えた27種類の予測の平均を示します。2006年5月以降、予測精度向上のため、予測の種類数を18から27に増加させています。)